



アルビレックス・レーシング・チーム

PRESS RELEASE

2013/7/27～28

MRF F1600 シリーズ 第3～5戦

参戦ドライバー: 栗村 和

開催地: マドラス・モーターパーク (インド・チェンナイ) 1Lap=3.717km 出走: 13台

7/27 (土) 第3戦・・・リタイア

7/28 (日) 第4戦・・・9位 第5戦・・・10位

今回MRF F1600 インドシリーズ参戦にご協力を頂いた各社様には感謝申し上げます。

今回の参戦について、アルビレックスレーシングチームとして全く新しい視点の中で海外参戦という新たなチャレンジに向けて、インド国内で開催されている若手登竜門のMRF F1600に参戦したいという栗村選手の勇気に感銘を受け、参戦して参りました。

まず、24日水曜日午後、イギリスF3メカニックよりシート作成してもらいました。インド国内は気温も30度を超える上に湿度も高く、シート合わせの際、発泡剤の熱でドライバーが耐えられないほど発汗し、このウィークの走行が難しいものになることが容易に想像できました、

25日からのフリー走行では、初めての車、初めてのコース、初めて体験する気候の中で、まずは車に慣れることに専念しました。この時点ではトップより10秒ほど落ちる走行となりました。その後走行を重ね、操作にも慣れてき、5秒落ちのところまで持って来ましたが、まだ競技する速さには至りませんでした。その日ミーティングを重ね26日のフリー走行に備えました。



26日も合計120分ほど走行時間がありましたが、体力と相談しつつ3秒落ちまで持って行きました。

27日ファーストレースの予選、決勝となりました。予選では12位でしたが1秒の中に8台ほど入る状況の中で、ちょっとしたきっかけで上位に入れるポジションに着きました。

決勝第1レースで、気合が空回りし3周目でコースオフを喫してしまい、リタイヤとなってしまいました。チームの作戦としては明日ある第2レースにて完走することを目標としました。

28日第2レースではこのウィーク最も熱くなり、ドライバーの体力消耗が懸念されました。中団グループで走行しましたが、8ラップ目から徐々に熱さにより体力が失われ8位という結果になりました。

続く第3レースは新たにニュータイヤを投入し挑みました。第3レースは前回までの2レースとは違い果敢に中団グループに入っておりましたが、やはり気候の影響で9周目以降ミスが目立つようになり9位となりました。

総じて今回は全て新しいパッケージの中で育成カテゴリーという枠の中では非常に努力を致しました。また、プロドライバーになるということが、どのスポーツでも同じですが、非常に過酷であることも私を含め栗村選手も勉強して参りました。今後もアジアを含め中東レースには積極的に参戦して参ります、今後とも応援の程宜しくお願い致します。

■栗村選手コメント

まずはじめに、今回参戦するにあたりご協力・応援して頂いた皆様ありがとうございました。また、ウィーク中、ベストの状態を作って頂いたチームの皆様ありがとうございました。結果的に厳しいものとなりましたが、今の自分自身の実力は全て出し切れたと思います。今回の参戦で、たくさんの貴重な経験を積むことができたので、この経験を今後活かしていきたいです。





現地到着後、まずはシート合わせを行いました。





フリー走行後、オンボード映像や走行データを確認します。
日本と比較して気温・湿度ともに高く、日本でのレース以上に体力の消耗が予想されました。



元F1ドライバーのナレイン・カーティケヤン選手とのツーショット。
現地メディアも多数取材に来ていました。





Beyond **P PLUS**



Nankai Plus.Co.,LTD.

鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tcnf.com/sds>



Moty's
www.motys.com

M.I.D

Japan Inc.
Mitsui Impres Development

新潟日報



MAKE WINNER

MOTOR FREAK



- ・ Zip Auto ・ KAISHIN AUTO ・ 榎本自動車整備工場 ・ 山田モーター
- ・ 東栄ボディー ・ 新潟オートシステム ・ Car Factory 雅美 ・ 堀モータース
- ・ みがき屋エンマ ・ Power Station ・ カイツ自動車 ・ トップオート ・ エムズ